









「シリーズ ここまでわかった考古学」展示風景と講演会・調査成果報告会

もくじ

- P. 2 小テーマ展示 (民家博・弥生博)
 - 平成16年度文化財講座
- P. 3 郷土の文化財を見学する会
 - ミニ講座 (民家博)
- P. 4 平成16年度後半期体験発掘
 - 第15回考古学国際交流研究会
- P. 5 末次理事 大阪文化賞受賞
 - 韓国から研究者来訪
 - 池上曽根遺跡現地説明会
 - 山賀遺跡現地説明会

- P. 6 磁器生産の源流を訪ねて―2004年 度全埋協海外研修に参加して―
- P. 7 トピックス
 - *大坂城跡出土文字瓦『天長地久 御願圓満皆令満足□』
 - *小阪合遺跡出土特殊器台形埴輪
- P. 8 ・ 弥生文化博物館 春の展示ご案内
 - 近つ飛鳥博物館 春の展示ご案内
 - 日本民家集落博物館 催しご案内 (4月~7月)

http://www.occh.or.jp

小テーマ展示(民家博・弥生博)

昨年度に続き第2回目になる今年度の小テーマ展示「シリーズ ここまでわかった考古学」は、センター博物館部 三館を会場として3つの展示を行なった。

A 『古墳時代の池島・福万寺遺跡―初めてのすみごこち―』 日本民家集落博物館内カルチュアはっとり

平成17年1月14日(金)~1月30日(日)

池島・福万寺遺跡は、長年の発掘調査により弥生時代から現代に至るまでの2500年間の耕地の移り変わりが判明している。その中でこの遺跡に初めて営まれた古墳時代のムラの様子を、3世紀~4世紀後半と5世紀~6世紀の2時期にわけて紹介。ムラの土器と田んぼの土器の違い、他地域から持ち込まれた土器についての最近の研究成果や6世紀のムラのまつり道具の製作とそのマツリに関して紹介展示。入館者数1,160人

会期中の行事

調查成果報告会·展示解説

1月23日(日)午後1時30分~3時30分

「池島・福万寺遺跡の3.4世紀」 市村 慎太郎技師 「池島・福万寺遺跡の5・6世紀」 廣瀬 時習技師

参加者66人

B 『瓜生堂遺跡の最新研究』

大阪府立弥生文化博物館特別展示室

平成17年2月19日(土)~3月27日(日)

近鉄奈良線の立体交差化に伴い、瓜生堂遺跡の北東部において1999年から3年間発掘調査を行い報告書も刊行された。今回の展示は、この調査と隣接地区の東大阪市教育委員会の調査成果を中心に、出土品約350点を展示。瓜生堂遺跡で初めて集落が営まれた前期前半の様相、弥生時代後期の吉備・讃岐・土佐などの遠隔地との交流、AMS炭素年代測定の結果弥生時代前期が紀元前8世紀~5世紀と遡ったこと等を紹介。入館者数2.516人

会期中の行事

調査成果報告会・ミニシンポジウム 午後2時~4時 第1回 2月27日(日)

「瓜生堂遺跡が問い続けるもの―1970年代から未来へ―」 福永 信雄氏(東大阪市教育委員会)・川瀬 貴子技師

参加者109人

第2回 3月13日(日)

「関連科学が明らかにした瓜生堂遺跡の実像」 松田 順一郎氏 ((財) 東大阪市文化財協会) 中原 計氏 (徳島大学埋蔵文化財調査室)

安部 みき子氏 (大阪市立大学大学院医学研究科)

秋山 浩三係長 参加者140人

講演会 3月20日(日) 午後2時~4時

「瓜生堂遺跡の炭素14年代と近畿弥生実年代」

今村 峯雄氏(国立歴史民俗博物館) 参加者180人

(近つ飛鳥博物館で開催の「久宝寺遺跡の最新成果」は次 号にて報告します。) (石神幸子)

平成16年度文化財講座

「日本の海外考古学調査part 2」後半を前号に引き続き紹介。

第6回 12月2日(木)

『「もう一つの蒙古襲来」を検証する―ロシア サハリン島 白主土城を探る―』

前川 要氏(中央大学文学部教授)

第7回 11月18日(木)

『ナイルから地中海へ―地方都市アコリスの軌跡―』

辻村 純代氏 (国士舘大学イラク古代文化研究所共同研究員) 第8回 12月16日 (木)

『シリア パルミラ遺跡の調査』

西藤 清秀氏 (奈良県立橿原考古学研究所調査第二課長) 第9回 1月20日 (木)

『ローマ帝政期の二つの別荘―Villa Romana a Cazzanello とVilla della Augusutusの調査を中心に―』

中西 靖人氏(帝塚山大学現代生活学部助教授) 第10回 2月17日(木)

『イスラエル国 テル・ゼロールからエン・ゲヴへ』

置田 雅昭氏(天理大学文学部教授)

第6回講座の開催日は、台風23号大阪襲来のため、12月2日に変更しご講演いただいた。ロシア領域での監視の目が厳しい困難な中での版築土塁と箱堀で囲まれている方形土城の調査のお話であった。参加者からは蒙古襲来はあったのかとの質問もあり。

エジプト、シリア、イスラエルの砂漠に位置するアクロポリスの様相、紀元前1世紀~5世紀にかけてのイタリアカッツァネッロと皇帝アウグストゥスの2つの別荘跡の調査など西アジア・イタリアにおける発掘調査の興味の尽きないご講演であった。ただ、この地域の調査は日本と異なり遺構が検出されるとそこは残したまま下層に掘り進まなければならないことになっているようで隔靴掻痒の感が否めない感じである。この他にも言葉・習慣の違いなど困難な状況の中で長い間調査を継続している皆さんに頭の下がる思いである。そして、その原動力になっているのは、新たなものを検出・出土した時の何物にも変えがたい喜びであることを講師の方々の話の端々からうかがう事ができた。

今年度の講座は、出席者は延べ1,115人(平均112人・出 席率71%)、全講座出席者は24人である。 (石神)



第8回 辻村氏

郷土の文化財を見学する会

第7回例会は平成16年11月14日(日)に、奈良市美術館 にて開催されている「発掘された日本列島展2004(中核展 示)」の見学と奈良町を探索しました。

奈良市美術館では奈良市埋蔵文化財センターの森下浩之 氏に、最近注目を集めている全国から出土した遺跡、遺物 の説明をしていただきました。

奈良町は講師を(財)元興寺文化財研究所にお勤めで古 くから同町の住人でもある狭川真一氏にお願いし、元興寺 を中心とした中世以降の奈良の町屋としての発展を教えて いただきました。

第8回例会は12月18日(土)にバスツアーとして、徳島 県北方地方、板野郡や鳴門市の文化財を見学しました。見 学会は30年にわたり、通算で300回以上開催していますが、 四国本土へは当見学会で初めて訪れました。

(財) 徳島県埋蔵文化財センターの藤川智之氏に案内し ていただきました。大阪やその周辺で見られるものとは違 う形をした古代の土器や、藍染めや大谷焼といった近世、 近代に隆盛した当地の地場産業が関西方面と密な繋がりが あったことを知り、親近感を抱かれた方が多くいました。

第9回例会は平成17年1月16日(日)に大阪市の平野区 を訪れました。当地は、中・近世には平野郷町といわれ、 堺と並び、環濠都市としておおいに発展した所です。

講師に大阪歴史博物館の豆谷浩之氏を迎えました。氏等 による発掘調査によって、町の様相が徐々にわかるように なってきたことを中心にお話していただきました。

堺に比べ、町の様子がよく解っていなかった平野ですが、 解明されつつあることに参加者は興味をもちました。

第10回例会は平成17年2月13日(日)に神戸市の兵庫区 と中央区を、神戸の港町としての発展を探るべく、訪れま した。講師は、神戸市立博物館の髙久智広氏と口野博史 氏です。髙久氏には文献史料をもとに、口野氏には考古史 料を中心として、大輪田泊、兵庫津、神戸(旧居留地)と、 港町が変遷したことを、お話ししていただきました。

又、「発掘された日本列島展2004」の地域展「震災から 10周年発信する地域文化」を見学しました。 (岡本 圭司)



板野町歴史文化公園黒谷川郡頭遺跡復元住居

ミニ講座 (民家博)

今年度のミニ講座の第二弾として、当センターと日本民 家集落博物館の共催で、連続講座「山村の文化再考」を、 民家博内カルチュアはっとりを会場として4回シリーズで 開催した。民家博の秋の企画展「山に生きる人々一宮崎県 椎葉村の民家と暮らし― | の開催期間中のミニ講座である。

第1回 11月13日 (土)

『椎葉の民家移築始末記』

鳥越 憲三郎氏 (大阪教育大学名誉教授)

11月20日(土)

『東南アジア山岳地帯の民家と暮らし』

若林 弘子氏(若林建築設計事務所・一級建築士)

11月27日 (土) 第3回

『西米良の焼畑と山村の暮らし』

伊藤 廣之氏 (大阪歴史博物館学芸課長)

12月4日(土) 第4回

『山間部の住まいと習俗一宮崎県椎葉村と奈良県十津川村の事例一』 森 降男氏 (関西大学教授)

民家博に移築されている民家にまつわるエピソードを織 り込みながら、スローライフの原点ともいえる心豊かな山村 の暮らしについて、椎葉村から東南アジアにまで視野を広 げて再考するという趣旨で講師の方々にお話いただいた。

第1回の鳥越憲三郎氏は、日本民家集落博物館設立に尽 力された先生であり、その時の経緯をエピソードを交えな がらお話された。第2回目の若林弘子氏は、調査された東 南アジアから中国南部の少数民族の暮らしと習俗、住まい のあり方を多くのスライドを映しながら説明された。

第3回目の伊藤廣之氏は、日本における焼畑文化の紹介 を、宮崎県西米良村を事例としてビデオを使いながら山村 の焼畑農耕のあり方から精神生活まで詳しくお話された。 自然を作り変えていくのではなく、自然とともに生きる暮らし であるという言葉が印象的であった。第4回目の森 隆男 氏は、民家の調査に入られた奈良県十津川村と徳島県東祖 谷村の事例をもとに住まいのあり方と考え方をお話された。

各回とも参加者は10人代と少なかったが(参加者総数53 名)、講演の内容は民俗学の今を知ることのできる中味の

濃いものであった。

民家博では、椎葉村の釜炒り 茶を振舞い皆さんに喜んでいた だいた。 (左)

第1回 鳥越 憲三郎氏 (下左) 第2回 若林 (下中央)第3回 廣之氏 伊藤 (下右) 第4回







(石神)

平成16年度後半期体験発掘

東大阪市立石切中学校の2年生4名が11月11日(木)~12日(金)の2日間、職場体験学習として発掘を体験しました。雨の中、学校から池島・福万寺遺跡の池島支所まで自転車で通い、支所で準備をして発掘調査現場に向いました。生徒達は、いずれの作業にも興味を示し熱心に取り組んでいました。1日目は、あいにくの雨ということで、室内での作業とし、洗浄・注記・接合の各作業を体験しました。生徒達が一番楽しかったのは洗浄作業とのことでした。支所に戻り、池島・福万寺遺跡から出土した遺物の説明を受けましたが、普段は手にすることのないものに触れることができて大変感動していました。2日目は、午後から雨も上がり、楽しみにしていた外業実習をしました。スプーンを使って弥生人の足跡を堀り、手ガリやジョレンを使って断面や地表面を調べ、最後に平板測量やレベル測量を体験して2日間の日程を終わりました。

12月10日(金)には、**大阪府立大手前高等学校**が集中セミナー「考古学入門」として、第2京阪道建設予定地内にある讃良郡条里遺跡で発掘体験学習をしました。

1・2年生の生徒21名が、午後2時から4時までの2時間、2班に別れて、弥生時代と桃山時代の水田を見学した後、足跡掘りを体験し、内業実習として古墳時代の土器の洗浄などを体験しました。 (山岡平和)

ナミコクハイキング

讃良郡条里遺跡(その5)では、11月20日に、国土交通 省 近畿地方整備局 浪速国道事務所主催の「緑立つ道ハ イキング」現場見学コースの受け入れを行った。

参加者は、大人から小学生までと幅広く、大型観光バス2台に分乗して現場に到着した。最初に、これまでの讃良郡条里遺跡の調査概要と、(その5)調査区の調査成果を説明した後、土器を見て触る遺物展示コースと、実際に発掘を行っている所を見るコースとに分かれた。皆、各コースの担当者にさかんに質問をしながら、土器を触ったり、作業員が発掘作業をしている姿を見たりして、熱心に見学をしていた。 (佐伯博光)



楽しそうに足跡を掘る大手前高校生

第15回考古学国際交流研究会

2005年2月19日から26日の間、韓国から河 真鎬(嶺南文化財研究院)、李 秀鴻(蔚山文化財研究院)、裵 真晟(国立金海博物館)、李 炫錫(蔚山発展研究院 文化財センター)の4氏を招請して、以下の日程で第15回考古学国際交流研究会が行われた。

日 程

- 2月19日(土) 来阪(釜山→大阪)
- 2月20日(日) 大阪府立近つ飛鳥博物館、同狭山池博物 館視察
- 2月21日(月) 当センター南部調査事務所、大阪歴史在 住研究者)
- 2月22日(火) (財)大阪市文化財協会長原調查事務所、 長原遺跡発掘現場、山賀遺跡発掘現場、 池島・福万寺遺跡発掘現場、中部調查事 務所視察
- 2月23日(水) 大阪府立弥生文化博物館、池上曽根遺跡 視察、本部事務所訪問、発表・意見交換 会(通訳:李 基星氏)、交流会(当セン ター)
- 2月24日(木) 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館、平 城宮跡、東大寺、奈良国立博物館視察
- 2月25日(金) 日本民家集落博物館、国立国際美術館 (中国国宝展) 視察
- 2月26日(土) 帰国(大阪→釜山)

この間、訪問先ではいろいろなご高配をいただいた。厚くお礼申し上げる。

発表会では、李 秀鴻氏「蔚山梅谷洞遺跡について」、李 炫錫氏「蔚山西部里南川遺跡」、河 真鎬氏「京釜高速鉄道慶州区間内慶州芳内里瓦窯跡発掘調査」、裵 真晟氏「検丹里類型の成立」について発表があった。当センターの調査と直接かかわる内容もあり、大変有意義であった、なお、21日~24日の間、慶南発展研究院から6名の方が来阪され、発表も含めて一緒に行動された。



大坂城跡出土遺物を前に藤田所長の説明を受ける皆さん

末次理事 大阪文化賞受賞

当センター理事の末次摂子氏が、2004年度の大阪文化賞を受賞された。大阪の文化に貢献した人や団体に贈られる賞で、同氏の文化振興への貢献が認められた。氏は読売新



聞記者、読売テ レビ勤務、大阪 府参与、高槻現 代劇場勤務など の間、文化、女 性問題に一貫し て取り組んでこ られた。また、 財団法人 大阪府 博物館協会の役 員として、同協 会と当センター 統合後は当セン ター役員として、 府立博物館や日 本民家集落博物 館の運営にもた ずさわられた。

大阪文化賞贈呈式の末次理事 (写真提供 大阪府)

韓国から研究者来訪

2005年1月以降、下記の人々が当センターを訪れた。

1月25日~26日 湖南文化財研究院 李 映澈氏他8名 大阪府立弥生文化博物館、山賀遺跡発

掘現場、中部調査事務所

2月22日~23日 慶南発展研究院 崔 憲燮氏他 5名 山賀遺跡発掘現場、池島・福万寺遺跡

発掘現場、中部調査事務所、大阪府立 弥生文化博物館、当センター本部事務

PJT

2月27日~28日 釜山大学 全 玉年氏、安 星姫氏、 李 昌熙氏、福泉洞博物館 宋 桂鉉

> 氏、東三洞貝塚展示館 李 海蓮氏 日本民家集落博物館、大阪府立弥生文 化博物館、山賀遺跡発掘現場

11. 图初期、山真遺跡充棚現場 3月4,5,8日 畿甸文化財研究院 金 起兌氏他4名

3月4,5,8日 畿甸又化財研究院 金 起兄氏他4名 中部調査事務所、山賀遺跡発掘現場、 大阪府立近つ飛鳥博物館、同弥生文化 博物館

来訪の目的は、当センターが行う発掘調査現場の運営や、 出土品の保存処理、写真撮影、報告書の増刷販売等につい て実際に見聞したいということであった。 3月3日には、 嶺南文化財研究院々長で、慶北大学教授の李 白圭氏が来 阪され、旧知の人々が集まり懇親のひとときを過ごした。

池上曾根遺跡現地説明会

史跡池上曽根遺跡では、現地説明会を11月13日(土)に開催した。調査では、計画的に配置された掘立柱建物を4棟(弥生時代中期後半)検出するなどの成果があり、環濠集落の中枢部の構造に関わる重要な知見が得られた。当日は、地元のみならず遠方からも見学者が訪れ、1,000人近くの参加者があった。現場では混乱を避けるため、4回に分け説明し、集合場所でも遺跡全体の説明を行った。また、弥生文化博物館において関連する遺物を展示し、開催中の特別展とともに多くの見学者で賑った。 (内田真雄)



説明会風景

山賀遺跡現地説明会

2005年2月27日(日)、小雪の散らつく午後、山賀遺跡 (八尾市新家町5丁目) 現地説明会を開催した。

直径54mを測る円形の2区で、弥生時代中期初頭頃の溝 群や木棺墓を公開し、溝群から出土した弥生土器、打製石 鏃、イノシシ牙製の腕輪、碧玉質管玉などを展示した。

府内・近県の話題の遺跡説明会と開催が重なり、さらに 最寄駅から2km離れているにもかかわらず、地元八尾市・ 東大阪市をはじめ100名近い見学者があった。

(本間元樹)



溝群を熱心に見学する来場者

磁器生産の源流を訪ねて-2004年度 全埋協海外研修に参加して-

中国の磁器とその生産遺跡を見学し交流を深めることを目的として、2004年12月2日から9日にかけて実施された全埋協海外研修に当センターから玉井 功、渡邊昌宏、山元 建、奥村茂輝の計4名が参加した。

日 程

- 12月2日(木) 関西国際空港—杭州国際空港。ガイド の宋小凡さんと合流後、印山越王墓 (紹興) 見学。国内線で温州へ移動。温 州泊。
- 12月3日(金) 温州発。午後竜泉郊外の永和橋、安仁 鎮窯見学。竜泉泊。
- 12月4日(土) 竜泉青磁博物館訪問。午後大窯、磁器 工房見学。
- 12月5日(日) 安福窯見学後、麗水へ移動。南昌行夜 行列車中泊。
- 12月6日(月) 早朝南昌着。江西省博物館、滕王閣、 中国江西省海外旅遊総公司訪問。午後 南昌発、景徳鎮へ移動。景徳鎮泊。
- 12月7日(火) 景徳鎮陶磁館、官窯博物館、宣徳帝官 窯見学後、景徳鎮陶磁考古研究所訪問。 午後民窯博物館(湖田窯)、磁器工房見 学。景徳鎮泊。
- 12月8日(水) 景徳鎮発。安徽省を通り、浙江省へ移 動。夕刻杭州老虎洞南宋官窯、杭州歴 史博物館見学。杭州泊。
- 12月9日(木) 浙江省博物館見学。午後杭州国際空港 一関西国際空港。

白熱の懇談会

「14世紀以降日本出土の輸入青磁は粗製品が多くなるが、 産地はどこか」「調査はまだ優品を出す窯が中心なので、 よくわからない」(竜泉青磁博物館 楊冠富副所長)、「日本 の須恵器窯のように斜面の地表面下に築かれる窯は中国に



竜泉安福窯

はないのか」「中国にそのような窯はない」(景徳鎮陶磁考 古研究所 劉新園所長)

竜泉・景徳鎮の訪問先での懇談は、どこでも研修参加者が日頃から疑問に思っている点を一気にぶつけ、終始スリリングな(?)展開に…。かみ合わない点もあったが、お互いの研究の現状、問題意識の相違点が明らかになっただけでも得るところは大であった。うって変わって江西省博物館では日本の財団にも関心を持たれている彭明瀚館長の質問に、研修団側が専ら当センターを例に回答する展開となる。いずれも実り多いが少々疲れる懇談会となった。

長い窯、短い窯

中国の窯は殷代以来北部(河北・中原)の平坦地に築く 平面馬蹄形の馬蹄窯(饅頭窯)と南部(江南・華南)の傾 斜地に造る細長い竜窯に大別され、今回研修で訪れた浙江 省、江西省は竜窯地域にあたる。その大半がダム湖に水没 しながらも窯壁の煉瓦積の様子が観察できた安仁鎮窯(竜 泉)、膨大な量の磁器片や窯道具からなる物原を残す安福 地区・大窯地区の窯(同)、磁器を詰めたままの窯の断面 が道路脇の切通し面に無造作に露出していた黄泥頭窯(景 徳鎮)、いずれも傾斜地に造られた細長い竜窯であった。

しかし、今回見学した宣徳帝官窯を始めとする景徳鎮の官窯では、製品の質にばらつきの大きい竜窯が敬遠されて馬蹄窯が採用された。さらに窯の長さと火入れの回数に応じて課税されることになった南宋以降は湖田窯などの民窯にもそれが広がる。現代の磁器工房内で見学した馬蹄窯は、中央がドーム状に極端に盛り上がっており(その形から鴨蛋窯と呼ばれる)、できるだけ短い窯で一回の生産量を上げようとする努力が見て取れる。「究極の節税窯」とでも言うべきか。窯の形ひとつにも人々のせめぎ合いの歴史が刻まれていて興味深く感じられた。

磁器に限らず窯業関係の遺跡を見るうえでの着眼点、問題意識が格段に広がったのが研修の最大の成果であったと思える。研修の成功に尽力いただいた方々に多謝!

(山元 建)

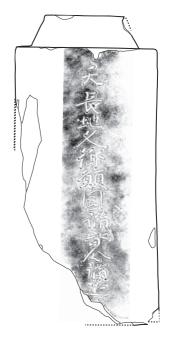


江西省博物館 彭明瀚館長との懇談

<<< 大坂城跡出土文字瓦『天長地久御願圓満皆令満足□』>>>

大阪府警本部棟新築2期工事に伴う大坂城跡03-1の発掘調査を平成15年7月から平成16年3月まで行なった。現在は報告書刊行に向けて整理作業中である。その整理作業過程の洗浄中に本瓦は見つかった。全長32.8cm、幅15.1cm、最大厚2.7cm、器高8.0cmを測る丸瓦である。左下部を一部破損するも、ほぼ完形である。瓦の凸面には丁寧なナデ調整後に『天長地久御願圓満皆令満足□』と焼成前に線刻している。凹面には布目痕が残存する。出土位置は、本調査地で検出した豊臣期大坂城跡の堀の南側である。本瓦は豊臣期の瓦に比較するとやや大ぶりであり、大坂本願寺期に作られた可能性が高い。

同様の内容が書かれたものには、神奈川県鎌倉市海智寺の県の重要文化財に指定されている梵鐘がある。時期は暦應3 (1340)年のものであるが、これにも『天長地久御願圓満』の文字が記されている。山口県むつみ村片俣に所在する片俣八幡宮の永享年間(1429~1441)に奉納された懸仏にも『天長地久御願圓満』の文字が墨書されている。その他にも「天長地久」の文字は願文に多く用いられる。そもそもは『老子』の「天長地久」の語句に由来する。その語句にもとづき、唐の玄宗が長寿を祝う日を設けた。それをうけて日本



大坂城跡出土文字瓦(S=1:4)

<<< 小阪合遺跡出土特殊器台形埴輪 >>>

今回紹介する特殊器台形埴輪は、平成16年4月から 10月に行った八尾市小阪合遺跡の発掘調査において、 古墳時代包含層から出土した資料である。

縦7.7cm、横7.2cm、幅1.2cmの破片である。色調はに ぶい黄橙色を呈し、胎土中には、金雲母・長石・石英 などが含まれるが、角閃石は認められない。いわゆる 吉備地域の胎土とは異なる。風化が著しく、調整は不 明瞭であるが、外面には散在的に縦方向のハケメ調整 が認められる。ハケメの溝には赤色顔料が遺存してお り、本来は外面全体に塗布されていたと考えられる。

円形ないし巴形透し孔の一部があり、この透し孔の上部と左方に、5条の沈線からなる文様帯が描かれている。二つの文様帯が連続するならば向木見型の文様構成に類似するが、向木見型に見られるような直状線文は描かれていない。また、都月型の文様構成と比較すると、蕨手状の曲線文様の描かれ方が左右逆方向で異なっている。全体の文様構成が明らかでないため、いずれの型式に属するか言及できない。現時点では、文様の退化が進んだ新しい時期に属するものと考える。

当遺跡の北西部に位置する東郷遺跡からは向木見型の特殊器台片が、萱振遺跡では特殊器台あるいは特殊器台形埴輪片が出土している。本例は河内で3例目と

なる

特殊器台、特殊器台形埴輪は、初期古墳が集中する 奈良盆地東南部で多く出土していることはよく知られて いる。小阪合遺跡を含めた、東郷、萱振、中田地域は、 吉備系土器が集中する地域の一つでもあり、今回出土 した資料は、当地域が吉備と倭政権との交流の中で重 要な役割を担っていたことを物語る資料といえる。

(金光正裕・松下知世)



特殊器台形埴輪

弥生文化博物館 春の展示ご案内

平成17年春季特別展

東海の弥生フロンティア 4月26日(火)~6月26日(日)

北部九州に伝わった弥生文化は、順調に東海西部の濃尾 平野まで伝わりました。濃尾平野は、東海東部から関東への 本格的な弥生文化波及の発信源となった地域です。特別展



では、濃尾平野における水田稲作の 開始や、弥生文化が東海東部、さら に南関東へとひろがっていく状況を取 り上げます。また、弥生時代後期の東 海地方で、西日本にはみられない形 の青銅器や墓などが現われることも あわせてご紹介します。

パレス式と呼ばれる土器 (名古屋市/高蔵遺跡)<重要文化財>

■春季特別展考古学セミナー(全5回)

- ①5月8日(日)「新しい登呂遺跡のすがたーひとりぼっちではなかった登呂のむらー」 中野 宥(静岡市登呂博物館)
- ②5月22日(日)「東日本弥生人の心をえがく~弥生時代が はじまるころ~」 設楽博己(駒澤大学助教授)
- ③6月5日(日)「東海と関東―人・物・情報の動きー」 安藤広道(慶応義塾大学助教授)
- ④ 6 月19日(日)「東海地方の銅鐸に倭国の政治を見る」 水野正好((財) 大阪府文化財センター理事長)
- ⑤ 6月26日(日)「狗奴国の幻影を求めて」 赤塚次郎(愛知県埋蔵文化財センター)

詳しくは博物館までお問い合わせください。 電 話 0725-46-2162 FAX 0725-46-2165 URL http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/

近つ飛鳥博物館 春の展示ご案内

平成17年度春季特別展

遙かなり音の道 一日本音楽の源流を探る一

弥生時代以来のコトの音にあわせて歌い語る伝統。古墳時代に入っていた可能性のある軍楽「鼓吹」。飛鳥~奈良時代にかけて導入された伎楽・雅楽などの大陸の音楽。日本古代の



音楽事情を紹介し、古代国家の形成と成 熟への音楽の関わりを考えていきます。

期 間: 4月23日(土)~6月19日(日) 月曜休館

開館時間:午前10時~午後5時

(入館は4時30分まで)

入館料:大人600円、高校生・大学

生・65歳以上400円

螺鈿槽箜篌(らでんそうのくご) <正倉院宝物復原模造品>

◆歴史セミナー

第1回(5月15日) 「日本古代音楽と演奏環境」 水野正好((財)大阪府文化財センター理事長)

第2回(5月29日) 「日本音楽の古層とその後の系譜」 小島美子(国立歴史民俗博物館名誉教授)

◆コンサート

第1回(5月1日) 「古代の楽・舞」 楽中練による雅楽・舞楽の演奏会

第2回(6月5日) 「琵琶語りの世界」 加藤敬徳氏による平家物語などの琵琶語り

■問い合わせ先

大阪府立近つ飛鳥博物館

TEL 0721-93-8321

http://www.mediajoy.com/chikatsu/

日本民家集落博物館 催しご案内(4月~7月)

- ◆ 風景画押し花とデザイン押し花展 <4/1(金)~5/15(日)>一民家での押し花作品展─
- ◆ こいのぼり < 4/20頃~5/8頃>一民家の庭先でのこいのぼりのかざりつけ—
- ◆ 子どもアート&クラフトまつり <4/30(土)~5/1(日)10:30~15:30>─いろいろな素材を使った作品作りの体験─
- ◆ こどもの日おもちゃプレゼント <5/3(火・祝)~5(木)10:00~> 一幼児・小中学生の入館者を対象に昔なつかしいおもちゃ プレゼントと昔のおもちゃ体験─
- ◆端午の節句・笹団子作り体験 <5/5(木・祝)10:30~13:00 要予約5/1締切>一端午の節句を祝う笹団子作りの体験─
- ◆ 春のお茶会 <5/14(土)~15(日)10:30~15:30>
 —茶室でお抹茶と和菓子をお楽しみください—
- ◆ はたおり体験 <5/17(火)~22(日)10:30~15:30> —さおり織りの体験。コースター作りなど—

- ◆ 米蔵体験 <5/28(土)、7/30(土)各日13:30~14:30>一拓本と綿繰り体験─
- ◆ 故きを温ねて <5/29(日)9:30~13:00頃>一当館館長とめぐる北摂の名所旧跡ウオーキング─
- ◆ 企画展「きざむ」─時をきざむ暦などを展示─<6/1(水)~30(木)>
- ◆ 昔話と紙芝居に親しむ会 <6/18(土)10:30~、13:30~各約1時間の公演>一民家の囲炉裏端での昔話と紙芝居の公演─
- ◆ 米蔵サロン <6/25(土)15:00~16:00>─当館館長をかこんで大阪の民家をテーマに話し合う小さなサロン─
- ◆ 養蚕体験 <7月上旬~8月下旬頃> 一白川の民家内での養蚕体験―

上記の催しについて、詳しくは博物館へお問い合わせください。 皆様のご来館をお待ちしています。 (TEL 06-6862-3137)